

第12期 第15回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成27年10月5日(月) 14時30分 ～ 17時00分

2 会 場 鳥取市役所 本庁舎 4階第2会議室

3 出席者 【委員】

渡部昭男委員(会長)、岩崎憲一委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、長谷川誠一委員、須崎聡委員、吉澤春樹委員、米原隆生委員、上山弘子委員、神谷正恵委員、有本喜美男委員、横西経雄委員、牛尾柳一郎委員、山本源五郎委員、平尾司砂委員、谷口好宏委員

【教育委員会(事務局)】

神谷康弘次長、豊福聡次長、小林克己主査兼学校施設係長、石上直彦主幹兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事録署名委員の選任 米原委員、上山委員

4 報告

(1) 第12回校区審議会審議概要について

(2) 第14回校区審議会審議概要について

(3) 校区審議に関連する活動報告について

(4) 「鹿野地域の教育を考える会」の要望について

(5) 「今後の鳥取市立南中学校のあり方について」の答申について

(6) 「鳥取市立学校条例の一部を改正する条例」公布について

5 議事

(1) 鹿野地域の学校のあり方について

(2) 千代川以西エリアの学校のあり方について

(3) その他

6 その他

7 閉 会

5 議事の概要

事務局

只今より第15回鳥取市校区審議会を開催します。本日は「鹿野地域の学校のあり方について」と、視察を行いました「千代川以西エリアの学校のあり方について」、この二つについてご審議していただきたいと思っております。では、渡部会長より挨拶・司会進行をお願いいたします。

会長

あらためまして、こんにちは。南中学校については無事に答申を出すことができました。委員のみなさま、そして岩崎副会長さん、ありがとうございました。それでは、今日もよろしくお願いいたします。

議事録署名人の選任ですが、順番により、米原委員さんと上山委員さんでよろしくをお願いいたします。それでは、報告事項に入りたいと思っております。事務局からよろしくお願いいたします。

事務局

[報告事項説明]

会長

ありがとうございました。福部地域に関する事項で補足などがありましたら、お願いします。

委員

今、説明をしていただきましたが、教育課程部会の方では新設教科の内容についての検討を行っているところです。新しい教科として、「みらい科」というものを設置しようということです。ひらがなの「みらい科」。その中には、二つの領域がありまして、「人間力」と「国際コミュニケーション力」という二つの領域を設けようとしているところです。

先生方がおっしゃられているのが、評価観点という所で新設教科になると評価をしなくてはならないので、どういう形でしょうかと悩んでいます。人間力で「△」がいたら、うちの子は人間力がないのかと、人間としてどうなのかと思われても困りますし、「みらい科」が全体的に「△」と言われると、うちの子に未来はないのかということもあったりして、今、難航をしています。これについての評価観点・目標等がはっきりしましたら、「人間力」と「国際コミュニケーション力」の二つの部会に分かれまして、新しい課程等の検討に取り組んでいくということで、追い込みの状態を迎えているところであります。以上です。

会長

教室環境の面において小学校低学年・高学年、中学生でどうするかといった議論は何か出ていますか。

委員

先ほどの報告にもありましたが、9月11日に教育環境のご専門の長澤先生に講演に来ていただき、手がけられた教室の形等を見せていただきました。

その中で目から鱗が落ちたのは、教室の四角いスペースで、どの学年も同じスペースの中で一年間を過ごして、次の学年に上がっていくものだと思っておりましたが、低学年は教室にいる時間が長いので、そこで一日の行動が完結できるような、フリースペースの中にちょっと隠れ家のようなものを置いたりして低学年の育ちを見ていこうとか、中学校になりましたら、国語科の専門教室、英語科の専門教室というように、科目ごとに専門教室を設置するなどといった紹介があった点です。また、職員室は学校の核であるということで、福部の場合は一貫校ですから全ての先生方が集まるスペースであります。そこにソファなどが置いてあり、先生方がリラックスしながら情報交換ができる場所であってほしいと

か、とても綺麗なトイレを設置されておられたり、本当に学校ってこんな形なのかと驚くくらいインパクトのある事例を紹介していただきました。

私たちの学校もどのようにしたらいいのかと、たまたま設計をしていただく会社の方が、福部の推進委員会のメンバーにおられるということで、私たちの思いも汲み取っていただいて、いい設計ができたらいいなと考えているところです。

会長

ありがとうございました。委員の皆さん、報告事項のところでは何か意見はありますか。なければ議事にまいます。それでは先ほど、視察を行いました千代川以西のことについて、山本委員さんが車中でもいろいろ説明していただきましたが、今日の資料に基づいて、補足の説明をしていただけますか。

委員

千代水地区、広く申し上げれば、世紀小学校・大正小学校を含む高草中学校区、このエリアは視察しました。しかし、明治小学校・東郷小学校も高草中学校に来ておりますが、このあたりは距離や時間の問題もあり、視察ができませんでした。千代川西側エリアの課題がずっと挙がってきているわけですが、これは第12期が始まって早々に、私も発言させていただきましたし、岩崎副会長さんもずっと以前からされておられました。この地区の再編審議は、今までの審議会でも再三してまいりました。昨年の1～3月頃だったと思います。私はこの千代水地区、城北小学校、北中学校がありますが、南部に行けば世紀小学校、大正小学校、高草中学校、さらに南は明治小学校、東郷小学校。これは非常に範囲も広いですし、学校が統合された歴史もなかなか難しい問題を抱えながら、現在に至っていますので、これはしっかりと地域の実情、町内会の個別ご意見等を公式でなく、水面下でそういう意見を収集・調査しなければなりません。また今日ご覧いただいた、商栄町から旧安長の集落、あるいはその周辺の住宅地、それから一番多い3,300人近くの住民を有する南安長の1～3丁目、緑ヶ丘の1～3丁目、この地域の子どもたちが、世紀小学校と大正小学校に校区再編になった場合には、安全な通学路があるのか、詳しくは、降りて歩かなかったわけですから、不十分だったと思います。私は横断歩道や押しボタン信号など安全な通学路が確保されないと、200数十名の小学生を世紀小学校と大正小学校に行かせるということは、そういう問題の目途がつかなければ簡単にはここで答申を出してしまうということは難しいと考えています。この地域に関しては、小委員会を昨年もお願ひしましたが、まだできておりません。ここの地区の小委員会を設置して、第13期において調査・検討をするという形でないといけないと考えております。

会長

今日の資料の中に、通学路の資料を持ってきていただきましたが、関係の吉澤委員さんと長谷川委員さん、少し補足があればお願いします。それと、先週の木曜日でしたか、急に低気圧が発達しまして大きな風が吹いたと思うのですが、その時の対応など具体的な話も含めて補足していただけますか。

委員

先週末頃に風がきつくなるというようなことがありました。早めに市教委の方からも情報提供がありましたが、その日、私は別の会に出ていたので教頭が主に対応していました。その日は低学年のうち2年生が5時間帰りで、1年生は残っておりました。3年生以上は6校時が終わると、通常4時あたりから、児童玄関を出るようになるのですが、早めに帰した方がいいという判断の下、全校一斉に放送を流し、『強い風が吹きそうだと、ついては早く下校してください』ということで10分15分前くらいの3時45分か3時50分あたりに、少し早めに下校させました。そして職員も八千代橋に立ちまして、その時はやはり風が強く、黄色い帽子をかぶって通学はしているのですが、ゴムを首にかけるような帽子な

のですが、ゴムが取れている子どももあったので、そうした子どもに対しては、カバンの中にしまいなさいという指示をしました。全学年ではないですが、八千代橋の西の方まで一緒に八千代橋を渡って帰したというような経緯がありました。ですから早めに授業を切り上げて帰したというわけではないですが、15分くらい早めに全校放送をかけて下校させたという対応を、先週末の強風の中いたしました。以上です。

会長

ありがとうございます。それでは吉澤委員さん、今日も視察の時に説明していただいたのですが、地図の中に黄色い丸とか、緑の丸とかありますので、そのことも含めてご説明をお願いします。

委員

今日お配りしました資料の一番最後に付けているのが、通学路の概略図ですが、その中で黄色い丸は立ち当番と言いまして、PTAの保護者が朝立っている場所を示しています。千代川の西詰のところや、安長橋を渡った横断歩道が長いので、そのあたりですとか、緑ヶ丘のファミリーマートの前に保護者が立っています。それ以外の緑とか青い丸は『子どもかけこみ110番』と言いまして、子どもが登下校で不審者に会うとか何かあったときは、お店や普段大人がおられる個人の家庭にお願いして、子どもたちの安全を守ってもらうということで設置している場所です。色の具合で青と緑があるのは、青丸はPTAにお願いしてなっている『子どもかけこみ110番』ですし、緑丸はコンビニエンスストアやガソリンスタンドで組合指定はしておりませんが、110番に協力しますというようなことがうたわれているところも一応、印をしているということになっております。この資料は数年前の資料で、最新のものではないので、若干変動はありますが、おおむねこうした所に110番ができています。見ていただくとよく分かると思うのですが、緑ヶ丘の子どもたちが南安長2丁目を通っていくのですが、その辺りは家がないというのがありますが、子どもたちが逃げる場所がありません。

この地域は今でも空地がたくさんありますし、それと並行して新しい一戸建てやアパートが増えていきますので、小さい子どもがたくさん増えているという現状があります。商栄町も高学年は一人しかおりませんが、1、2年生は10人程度おります。通学の面では、普通だと集団登校なので高学年が班長をしますが、4年生くらいが班長をしないといけない。残りが低学年というような現状も出てきています。以上です。

会長

ありがとうございます。それでは、途中になりますが、鹿野町の関係者が集まられたそうなので、お入りいただきたいと思います。報告事項と協議題の1に合わせ、要望書の説明をいただこうと思います。

お忙しい中、お時間を取っていただき、ありがとうございます。校区審議会の会長をしております渡部です。よろしく申し上げます。委員の方の紹介は、鹿野をお訪ねする機会があるようなので、そちらに委ねたいと思います。今日は4人の方の自己紹介をしていただいた上で要望書の説明をと思っております。

鹿野地域の教育を考える会 【自己紹介】

会長

それでは要望書の説明を、お願いいたします。

鹿野地域の教育を考える会会長

鳥取市長、教育長に要望書を提出する機会を設けていただきました。

まず、これまでの経緯についてご説明します。校区審議会で鹿野中学校のあり方ということで、問題が提起されまして、住民に対する説明会などを開催してまいりました。そこでどのようにしたらいいかという住民のアンケートを、中学校を卒業された以上の方、一人一枚書いていただきました。それを受けてどのようにしたらよいかということで、アンケートの結果につきまして、手元に細かい資料は配布していませんが、鹿野地域に学校を残すべきだという答えが、全体の 73% ございました。残すためにはどうしたらいいかということで、小中一貫校が 56.5%、単独校で 43.5% というような意向が出ましたので、それを受けまして、いろいろと協議を行いました。協議の段階では、もちろん市の教育委員会の方の意見もいただきながら議論し、小中一貫校はどのようになっているかというようなことを勉強させていただきました。それを経て、あり方をまとめました。

このまとめの段階で住民説明を経て、意見を伺ってそれを確定したものが、この要望書でございます。表紙につきましては、経緯でございまして今説明させていただいたとおりです。2 ページ目から説明させていただきますと、鹿野地域の目指す教育の目標ということで、『ふるさとを誇り世界で活躍する人づくり』と『ふるさとを守り地域をささえる人づくり』、この2つの大きな目標を掲げております。これは、地域の誇り、先人の思いを未来に確実に伝えたいと願っておりまして、様々な人や地域との交流を通じて世界へ羽ばたいていく人材、一層輝く地域づくりを推進するため、地域を支えていく志や力を持ち、豊かな人間性を備えた人材を、地域全体で大切に育てていきたい。そんな思いで目標を掲げております。

そこで望ましい学校の形態でございますが、鹿野小学校及び鹿野中学校は、それぞれの歴史・立地等の環境を最大限活用しながら、9年間を通したカリキュラムを作りまして、地域の教育目標を着実に達成するため「小中一貫校（校舎分離型）」の設置をお願いしたいと思っております。鹿野地域には、地域住民が寄附や労働奉仕するなどして、明治6年に小学校、戦後昭和22年に中学校を立ち上げておりますが、中学校は自然環境、立地環境が豊かな場所に校舎が建っております。また地域の住民も一生懸命、いろんな企業も協力をしています。

小学校は新しくできておりますが、旧小学校はエコスクールとして整備されております。さらに幼児教育の重要性に鑑みて、県内で初めて公立幼稚園を開設し、現在、本市唯一の3年制公立幼稚園である「こじか園」があります。鹿野では幼稚園は非常に古くから出来ておりまして、昭和24年に私立でも幼稚園ができておりまして、住民が教育に熱心な地域であると我々も自負しているところでございます。いずれも地域ぐるみで子どもたちを育み、子ども・学校と共に成長する地域づくりを推進してきたというところであります。

小中一貫校となることで、鹿野地域の教育の伝統と教育に注ぐ地域住民の熱い思いを、未来に確実に引き継ぎ一層の発展につながるものと考えております。亀井公のいらっしゃる頃には、20歳までに勉強しろということをおっしゃっていたというふうに鹿野では伝わっております。教育に熱心なところでありますし、1,800年代も私立が鹿野町内にあり、藩から認められた子どもの教育機関、私塾がありました。そういうことに関しては、非常に鹿野地域は教育に熱心な地域だというふうに思っております。地域性豊かな特色ある教育を実施するための取り組みをしたいと思っております。

一番としては、「表鷺（あらわし）科」など地域独特の教科の導入。『あらわし』というのは表すというのと鷺というのが、鹿野の裏に鷺峰山があるのですが。具体的には、自らの志を語るができる子ども、地域の一員として地域に関わることができる子どもを育てていくため、鹿野は川柳が盛んなのですが、川柳や演劇、演劇は鳥の劇場という劇団がございまして、これは自分たちが演じるだけではなく、学校などにも呼ばれ、講座を設けて教育に取り組んでいます。英語などを総合的に学び、表現力やコミュニケーション力、協働する力などを養う教科ということで「表鷺（あらわし）科」というものを表しております。

また、小中一貫校でありますと、小学校の卒業式とか、中学校の入学式というのはないのですが、一つのけじめとして、10歳になったら「2分の1成人式」や、15歳になると中学校の卒業式ということになるのですが「表鷲の巣立ち式」を通して、自らの将来にわたる「かくありたしの像」という一つの生き方として、自らの生き方の土台を築きあげる教科であります。

2つ目としまして、小中教員の連携体制の強化と小学校への一部、教科担任制等の導入でございます。

3つ目として、小中が分かれています、一貫校ではあります但し校舎間に距離があるのですが、他の学校、企業等と連携した交流学习の実施と、そのために必要な情報系設備の整備、これをお願いしたいと思っております。

4番目としまして、小規模転入制度の早期導入、これはすでに実施が決まっている様でございます。こういうことを、ぜひ考えて取り組みたいと思っております。そこで地域との関わりでございますが、鹿野地域では地域ぐるみで子どもたちと大切に育ててきた長い歴史と伝統があります。地域とともにある学校づくりを一層推進するため、「鹿野地域学校応援団（仮称）」を組織し、地域の資源・人材を活用した授業支援や児童生徒の地域活動への参画促進など、子どもと学校、地域の健全な成長を支えます。仮称でございますが、応援団の準備会は開催されておまして、正式に発足を目指すのですが、今月の26日に発足に向けた第2回目の打ち合わせを予定しております。

地域ぐるみ教育並びに子どもと一緒に成長する地域づくりを一層推進するため、コミュニティ・スクールの導入をお願いいたします。コミュニティ・スクールのためには、地域の方の応援が必要と考えております。学校と地域住民の連携・協働を深めるため、鹿野中学校に地域開放拠点空間の整備をお願いいたします。これは新たに大きなものを建てるというのではなく、すでに空いた教室の部屋を、一定の生徒の安全性を確保しながら、住民が学校と何かできることをやろう、整備をしていきたいということでございます。

以上が提出させていただいた要望書の説明でございます。

会長

ありがとうございました。それでは、他の方々で補足でも結構ですし、熱い思いなどありますでしょうか。

鹿野地域の教育を考える会委員

基本的には先ほど会長から、ご説明していただいた内容でよいかと思うのですが、議論が始まった当初というのは、中学校をどうすべきかという投げかけをいただいてからの発足でございました。それについてやはり、中学校は地元に残したいという、中学校をご覧いただいた方がおられるのか、おられないのか分かりませんが、城下町の下にあつて、その立地自体が鹿野町民のアイデンティティーをすごく形成しているのだろうと、鹿野町外から縁あつて鹿野町の方に住ませていただいておりますが、初めて出会う住民の方、皆さんが中学校のことを誇りに思っておられるというのは、やはり3年間をこの環境で育つというのが非常に大きいのだろうなと感じました。アンケートの中にもそういった結果が出ているというところで、これは必須なのだろうと、それは住民の思いでもあるのだと思います。

一方、小規模というのには変わりはありませんし、今は幼稚園の園児の数を考えても、人数が大幅に増えるというのも正直ないと思います。その中で、学校の先生と話をする中では、少人数学級の良さというのが絶対あります。きめ細やかに教育・指導ができるとか、自然環境の豊かな中で子どもたちが育っていくというのは他の地域・市街地の大人数の中の教育とはちょっと違うメリットがあり、それは生かしていきたいと思っております。一方で少人数ということで子どもたちから同じ環境・メンバーで育つということで、暗黙の中で会話が成り立ってしまうなど、弱い部分もご意見いただいて、その中でどういったことをしていこうかと考えました。「表鷲（あらわし）科」で、表現・コミュニケーション

ンというのを強めて、それが教育を進める上で大事だという発想もある。今の学校の教育カリキュラムの中で出来ない部分を小中一貫校にすることで、やりやすくしていくということが一つ考えとしてはあると思います。

もう1つは、住民との関わり。今でもすごく住民の方に参画をいただいております、幼稚園もあくまで幼児教育の中で、高齢者の方が中心になるのですが、毎月1、2回は必ず参画をいただいているような、教育がされています。現実として、ある程度参画される方というのが若干、特定化されているというのがあって、その一つとして自分の孫とかがいないとなかなか学校と縁遠くなるという話もあって、一つの解決策として、地域開放拠点というのがあれば、ちょっと来やすくなるのかな、というような思いもあって、提案をさせていただいたということもあります。

会長

ありがとうございました。委員の皆さんで今日の時点で何か確認したいこととか、お聞きしておきたいことはありますか。

私からお願いしたいのは、1年間の議論の中で見学とか参考にされたような学校ですね、例えば小中一貫校でここは面白そうだということで参考にしたとか、またコミュニティ・スクールとかいくつか出ていますが、全国的な先進事例と言いましょか、1年間の議論の中で、何か出てきたようなところはありますでしょうか。

鹿野地域の教育を考える会副会長

小中一貫校の湖南学園に見学に行き、15人くらいだったと思うのですが、委員の方以外も参加されました。夏にプールで小さな子どもさんと中学校2年生くらいでしょうか、一つのプールに入っておられたのを見まして、こういうこともあるのかなというふうに感じました。また、トイレを見ますと、学年合わせて配置されており、問題ないと思いました。小さいから小中一貫校にするのではなく、姫路の資料などを通じて、大きくても小中一貫校を取り組む事例を勉強させていただきました。

会長

ありがとうございました。その他ではどうでしょうか。

委員

今、熱き思いをお聞きしたわけでありまして、歴史的に見ましても鹿野町は、古い歴史と伝統があり、中学校をなくしたくないという気持ちは伝わりました。何よりも私は、ふるさとを守り地域を支える人づくりを目指したいと、豊かな人間性を備えた人材を育ていきたいと、こういうことに私は胸が熱くなりました。ただし、「表驚（あらわし）科」という言葉は初めて聞きましたし、色々な意味合いを教科として取り入れたいという表現をしておられますが、公立の小学校・中学校で教科として扱うには、それなりの手続きと内容が必要なので、もうちょっと研究していただきたい。それと校舎が分離型ということなので、どの程度、小学校と中学校の距離が離れているのか分かりませんが、双方の児童生徒が行き来するわけですから、そのあたりの安全性、利便性が分かりかねます。そのあたりをまた説明していただければと思っております。以上でございます。

会長

地図については、配布資料に付いています。この距離がどのくらいなのか説明していただきたいと思っております。

鹿野地域の教育を考える会副会長

距離としては700メートルくらいだと思いますが、比較的、車の通行量が少なく、道路はゆったり幅広の歩道と車道がございまして、きれいに分離されております。中学校の手前はちょっと狭くなりますが。ちょうどいい距離感かなと思うのですが、先生が移動するのにどうかという議論もありあます。鹿野の現地を見ていただけたら何とかなるかなという感じではないかなと思います。

「表鷲（あらわし）科」について、ご指摘を伺いましたが、決まった教育の内容の中でどういうふうに取り入れられるか、確かに我々は教育行政に精通しているわけではありませんので、この辺は教育委員会なり、学校の先生とご相談しながら進めていただいて、と思います。ただ人前で発表する力、この辺を世界に羽ばたくためにはやはり、表現力・発言力というのは必要だと思います。大きい学校は一人の発表する時間が少ないかもしれないですが、小さい学校はひとりが頑張らないといけないので、むしろいいのではないかと思います。今後検討させていただきたいと思っております。

会長

今回の懇談の時のための、論点整理というか柱建てだと思いますので、少し私の方で整理します。

校舎が分かれているデメリットもあると思うのですが、それを例えば教育情報環境のようなもので補いたいということとか、子どもが行き来したり、先生が行き来したり、いろんなアイデアの中でカバーしていけると思いますので、一体型ではない、校舎が接近はしているが離れている、という問題をどうするかということが一点あると思います。

それから「表鷲（あらわし）科」は非常に斬新なアイデアなのですが、総合的な学習の時間のようなものの形のイメージで実施するのか、既存の様々な教科を横断的につなげて、「表鷲（あらわし）科」という独自のものを作っていこうとするのかというのが、論点だと思います。

もう一つ、細かいことを言いますと、18歳が法律上の成年者になると10歳は2分の1にならない問題が出てきますので、そのあたりをどうするか。

また、鹿野を巣立っていった高校生を巻き込んだようなプランを入れてくると、15歳で終わりではなくて、青年期にも繋がった「表鷲（あらわし）科」のイメージにもなってくるのかなと感じました。

委員の皆さん、他にはどうでしょうか。

委員

平成26年6月24日の教育を考える会の資料ですが、小学校の8クラスという内容はどういうことですか。普通学級が8クラスですか。現在はどうでしょうか。

鹿野町総合支所長

現在は8クラスです。

委員

普通学級が8クラスですか。

鹿野町総合支所長

普通学級です。

委員

170人ということは、20数人ということですね。1クラスが。

会長

今日の配布資料の 34、35 ページに関連データがあります。特別支援学級は、今はないというような理解でよろしいでしょうか。特別支援学級は別途ありますか。

鹿野町総合支所長

今はありません。

委員

かなり余裕のあるクラス編成でやっておられるわけですね。鳥取市は 35 名ですから。

鹿野町総合支所長

1 学年が 36 名以上の学年が 2 学年あります。

委員

2 学年あるわけですね。

鹿野町総合支所長

そうです。

委員

中学校が 70 人台ですから、3 クラス。鹿野町として根本的に今後を考えなければならないのは、すでに湖南学園は 5 年前に比べて小学生も中学生も相当減ってきてまして、中学生に至っては 40 数名になっているわけですね。ですからこの中学生の集団生活の問題とか、学校行事、スポーツ活動を考えると、いくら地元中学校を残すと言っても、教育効果、総合的に生徒指導を考えましたら、問題があると思います。

私がそういうことを申し上げるのは、数年前から周辺部、いわゆる鳥取市の中心市街地でなくて、鳥取市に合併した町村、高草地区も含めて中山間地の振興対策をしなければ、都市部ばかり地方創生の予算を投入して充実させても、鹿野町も中山間地なのですが、人口がどんどん減って、いくら小中一貫校にしても存続が難しくなると思います。そういう観点で中山間地にある学校の統廃合なり、今後の編成は地方創生の問題と絡めて、鳥取市はやっていかなければならないと思います。市の執行部なり、具体的にこの問題をやっているところに対して、中山間地の振興と中山間地にある小中学校の再編はセットで考えていかなければならない。ですから教育委員会だけでやってもいけないわけでありまして。

それからもう一点は、鹿野町とされては人口が減らない対策を今後どのように立てていかれるのか、お聞かせいただきたいと思います。以上です。

会長

論点整理をすると、4 点目として、幼稚園から中学校までの縦のつながりを強調されておられる一方で、中学校の生徒が少ないという事実は変わりません。したがって、例えば旧郡内の中学校とも横に連携しながら、12 歳から 15 歳の中学生の集団として、色々な形で普段は小さい集団を大きくすることも何か工夫できないかというふうなことが論点だと思うのです。

5 点目の論点は、例えば I J U ターンのようなことも含め、鹿野は熱心に地域・街づくりをされていて

るので、そういうところの関連で地域開放拠点空間とか、もっと膨らませてみてはどうかというご提案にもなります。今の時点で一言何かございますか。

鹿野地域の教育を考える会会長

確かに鳥取市の人口は減ると思います。鹿野中学校が他と統合して、鹿野から中学校がなくなれば、鹿野はもっと人口が減ると思います。入ってこないと思います。それでいいのですか、というふうに地域の人は考えているのです。そこで、鹿野は空き家を使ったIターンやUターンを受け入れたり、お試しの定住というのを行政が手掛けておられます。また2年後くらいですが、鳥取道の延長に伴い、鹿野・浜村のインターチェンジができてくるのですが、今、鳥取市の方に合わせて要望を出させていただいているのは、鳥取西地域に工業団地がかなり一杯になってきておまして、工業団地の増設を地域振興会議でも旧気高郡の山中で工業団地を設けてほしいという要望を出しております。人口が増えないということがあり、反対に統合して効率化を推進すれば、ますます地域は疲弊すると危機感をもっているところでもあります。

会長

ありがとうございます。では有本委員、お願いします。

委員

今回の意見交換時でもよかったのですが、旧鳥取市内の小中学校、特に小学校において施設分離型というのはどうかと、前回の会で発言した一人なのですが、分離型のメリットはそんなに多くはないと私は考えております。

スタート時は施設を有効に使おうという意味があるとすればいいと思うのですが、例えばモデルにされたと思います湖南学園にしても、当初は分離型でした。しかし、いろんな考えをまとめる中で湖南のように小中一つの校舎になったわけですね。率直に、今あるものを有効に使おうといった多くの意見で分離型を定義されたのか、何か鹿野の特徴があって分離した方がいい方に傾いたのか、そういうのがあればお聞かせいただきたい。

それから小規模校転入制度のことですが、湖南学園でも確かに実績があるのですが、制度としてあっても、なかなか実現が難しい状況もあるのです。それはどういうことかということ、子どもが行きたい、保護者が行かせたいと思っても、公共交通機関で行ける年齢なのかということや、親や保護者が送り迎えをしなければいけない実態が現実でありまして、比較的近いところでないと通学は難しいというような実態もあります。そうすると他小学校の生徒を鹿野の方に、というような素晴らしい教育をやっているならば、風が吹くわけですが、そのようなことも想定して、是非とも小規模校転入制度という結論になったのでしょうか。そういう制度を早急に取り入れる議論が本当に高まっているのかどうか、うまく機能していないという現実もある中で、議論の中ではどういう意見が出ていたのかということをお聞かせいただければと思います。

鹿野地域の教育を考える会会長

校舎分離型のお話ですが、鹿野中学校は鳥取の市街地で言うと鳥取西高のような感じで、城山の麓に建っているのです。鹿野中学校のグラウンドはちょうど鹿野城の本丸御殿の場所にあります。それから中学校の校舎は内堀と外堀の挟まれたところにありまして、非常に環境が素晴らしいです。鳥取西高はそこから離れたくないという方が、多数いらっしゃるようですが、鹿野中学校もおそらくそんな学校ではないかと思えます。そういうこともあり、是非あそこに校舎を残したいという気持ちが個人的にはあったと思っております。

もう一点、小規模校転入制度についてですが、私たちが鹿野中学に通った昭和 40 年代初めでしょうか、当時、気高郡は町立の中学校ではなく、組合立の中学校でありまして、私の年代では現在、気高中になっていますが、逢坂のかなり南の方まで鹿野中学に来ておられましたし、瑞穂の端の宿や上光辺りは鹿野中学に来ておられました。おじいさん、おばあさんの年代は友達がたくさんいるのですが、あの辺だったら鹿野中学に行った方が近いと思います。今はだんだん鹿野の商店街がなくなりましたが当時は鹿野の商圈であったと思いますし、気持ちとしては、そのあたりの子どもたちも鹿野中学校に来ればいいなというような意見があったことは事実でございます。

会長

少し補足しますと、論点の 1 でも言いました分離のデメリットの解消策でもあるのですが、その時にアイデンティティーというような鹿野独特・特有のものを出しつつ、もう一つ、もともと小中一貫校は中 1 ギャップを無くすというのがテーマでしたので、例えば小学校 6 年生から中学校に移るとようなアイデアも考えられます。いわゆる六・三制ではなくて、五・四制といった形です。ですから、そのような議論を進めてみてはどうかということだと思います。

結論が出ないと要望を受けないということではなく、要望の基本線の中でも、こんな課題があります、ということを書かしていただくような形になるかと思います。

最後の論点というのは、小規模校転入制度の場合、もう少し大胆に踏み込めば、「鹿野留学」のような、例えば里親のような人がいて、親が通わせてなくても、思春期の年齢の子たちを鹿野で過ごさせるというプランもありうるわけです。これには、かなり地域の人にご協力いただかないと、踏み出せないわけですね。ですから、やって来たい人だけ小規模校転入で受け入れます、というところから一步踏み出して、中学生年齢の人を鹿野に呼びこむのだと。そうするとどういふふうなアイデアとか、地域の協力とか、例えば鳥の劇場とかいろいろありますが、地域資源をどういふふうに活用していくかということも次の課題として議論されるべきかと思います。

委員

先ほど会長さんのご説明の中で、アンケート結果で小中一貫校が 56.5%、単独が 43.5%であったと伺いました。この前提としては、当初は中学校をどうするかというのがスタートでアンケートを採られたりとか、意見を聞かれてそのような数字出たかと思うのですが、その中で小中学校の保護者の方々はどいった形の意見があったのか、具体的に分かればお聞かせ願えたらと思います。

委員

特に質問というわけではありませんが、鳥取市は校区ごとに連携して取り組みをしていらっしゃる中で、分離型の一貫校という教育効果と言いますか、今やっている教育、それ以上のものが見えないと一貫校としての意味がないと思いますので、そのあたりについても質問ではありませんが是非考えていただきたいということと、鹿野には I ターンで来ていらっしゃる家庭もありますよね。地方創生の話をするときに、来ていただいて意見交換をしたことがございます。その中で東京の教育環境と、鹿野の教育環境はどこが違うのかと、「子育て王国とっとり」と言いながら、全然それが姿として見えていないというような意見があったりしたものですから、是非 I ターンで来られている方のお話をしっかり聞いていただいて、特色のある学校にさせていただけたらいいなと思います。

会長

他に意見はありますか。米原委員さんのご質問で何かあればお答えいただいて、残りのところはまた後日、お尋ねさせていただきたいと思います。アンケートの内容で、数字だけではなくて、その背景に

ある意見のようなものが聞ければということですがいかがでしょうか。

鹿野地域の教育を考える会会長

まず鹿野地域に中学校を残すべきという意見が非常に強く、この中で残すとしたらどちらかということなのですが、保護者の意見ということで、年代別には今、手元に出ないのでまた後日お答えさせていただきます。と思っています。

アンケートの採り方ですが、世帯の中でも家族の意見が違うと思いますので、アンケートを採る時も世帯主が全部仕切らないように封筒を分けるなど、それなりの配慮をしたつもりです。後日、ゆっくり回答をさせて頂きたいと思います。

会長

はい、ではまた訪問させていただいたときにお願いします。まだご発言されていない方がいらっしゃいますので、熱い思いなども含めて要望などがあればお願いします。

鹿野地域の教育を考える会副会長

今日はお忙しい中ありがとうございます。先ほどから、色々な議論が出ておりますが、小学校は無くならないと思いますが、中学校がなくなれば、なかなか町と学生との時間が少なくなってしまう。学生さんが町からいなくなれば、地域が衰退していくというのが大きなところでございまして、今後みんなで幼小中と鹿野地域の発展をするためにここに残していきたいというのが大きな思いです。実はここに鹿野町 PTA 連合会の会長がおりますが、私も副会長なのですが、幼小中の取り組みというのを前からやっております。先ほど湖南学園でプールに入れるのに、中学生が幼稚園児を入れたということについても、うちはこじか園さんとも協力してやっております。遠足も小学校 3 年生と 2 年生とか、小学校 5 年生とこじか園の年長とかそういうところで、どんどん取り組みをしていますので、さらにこれがしっかりと、また教育の目標を見据えて将来的に人口も増えて、さらに別の校区からも生徒さん・親御さんが、この学校がいいと言われるような取り組みを、このメンバーを含めて地域全体でやっていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

会長

他のお二人はどうですか。他に何かございますか。

鹿野町総合支所長

最後に事務局として、少し整理をさせていただきたいと思います。まず、一貫校の校舎分離デメリットはどうかというあたりですが、学校も残したいという議論も大きな時間を使ってやってきましたが、後半では一つとなった教員団、9 年間を通じた教育ができるのではないかと。そのあたりが後半の論点だったというふうに振り返っております。

それから、要望事項の中の望ましい学校の形態の中に、(2) ということで小中教員の連携ですとか、(3) には校舎間の情報系の整備等がございます。小学校と中学校は約 700 メートル離れております。以前から『川柳街道』という命名された道路でつながっている学校であります。物質的にも心の面でも、以前から繋っているような学校であるとお話しをさせていただきたいと思います。それでもなおかつ、一つの教員団として十分まとまっていたくためには、校舎間をつないだ情報系の設備も充実して欲しいというのが (2)、(3) でございます。

一貫校となりましても小規模校に伴う課題はなかなか解決できないというところで、ICT 環境が充実すれば、場合によっては他校・企業等と連携しながら、授業の展開もできるのではないかと。そうい

ったことを意識した項目が、この(3)ということでございます。

それからⅢの地域のかかわりの(2)でございますが、中学校に地域開放拠点ということで、会長からもご説明していただきましたが、鹿野小学校には統合と同時に地域開放教室棟という特別教室棟が造られておまして、学校図書室を中心に常時、地域の方も出入りできるような仕組みが整えられております。その中で今、社会教育・社会体育を地域の人たちが子どもたちの放課後を支援している取り組みが現に小学校では統合以来、2001年から15年間ずっと続いてきております。そういった姿を中学校の中にも導入したいということで、新たな設備を整備するのではなく、空き空間を活用して地域の住民が気持ちを学校に向けることができる入口と言いますか、そういった意味合いでも場所が欲しいというのが(2)の内容でございます。

それから、小規模校転入制度の関係でございます。すでに来年度から鹿野中学校での導入が決まっているのですが、一貫校となりましたら小学校にも適用していただきたいという気持ちで、早期導入して欲しいといった記載をしております。

U J I ターンの取り組みの話も、かなり進んでいます。小さな数字で自信を持って申し上げることは出来ないのですが、今年の12月末時点では一時Iターン・Uターンが増えまして、社会増減ではプラスマイナス0になったという月もございました。引き続き注目しながら、人口推移を見届けているのですが、空き家活用も進めておまして、昨年度だけで21名の方に空き家に引っ越していただいたというようなこともございます。地域の方では一生懸命、交流を通じた人口増加に取り組んでおまして、魅力ある教育が展開できる地域になれば、さらにそちらも伸び、相乗効果が得られるのではないかと、そのような議論も進んでいるというところでございます。

以上、補足させていただきました。ありがとうございました。

鹿野地域の教育を考える会委員

本日はお忙しい中、貴重な時間をいただきましたことをお礼申し上げます。私たち鹿野地域の教育を考える会の要望書提出に際しまして、まだまだ私たちは研究・討議していかなければならないと思っておりますが、私たち保護者もこの提出に際しまして日々真剣に考えてまいりました。子どもたちのため、地域のためにどうすべきか考えさせていただいた結果が、提出させていただいた要望書の通りでございます。要望書作成までの間、保護者・地域の方々等で、悩み、考え、語り合い、子どもたちのことを第一に考え、まとめてまいりました。私たち子育て世代が次世代を担う子どもたちのことを第一に考え、先頭に立ち地域の皆様方・地域の各種団体様方とタッグを組み、助け合いながら、守りに入ることなく攻めたいと、そして子どもたちの幸せへの道しるべとなればと決意をいたしております。どうか鳥取市活性化のため、平和溢れる鹿野町のため、次世代を担う子どもたちの笑顔のためにご理解いただけますよう、よろしくお願いいたします。以上でございます。

会長

どうもお忙しいところありがとうございました。10月中にはお訪ねして、懇談できる機会をと思っております。また鳥取市教育委員会から日程調整させていただきますので、その節はよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、委員の皆様、2、3分休憩を取ります。

(休憩)

会長

事務局から議事資料の説明をお願いいたします。

事務局

議事資料、今日の校区審議会の資料と 25 ページに鹿野の地図が入っていると思います。これを横向きに見ていただいて、鹿野の小中の施設の現状を説明したいと思います。まず位置関係からいきたいと思います。25 ページの平面図がございまして、真ん中上の方に鹿野総合支所がありまして、ここから山の方に三徳山を越えるところを少し曲がって入ったところに、鹿野小学校がございまして、ここから先ほど、700 メートルとおっしゃっていましたが、鹿野小学校開校に合わせてつけた二車線の道路、歩道も含め 3 メートルくらいの幅で 2 メートル以上とれる道路があります。この鹿野城跡の中に中学校があります。昼間はかなり交通量が少ない場所に二校があるということになります。ちなみにこじか園ですが右上の辺りの、農業者トレーニングセンター、その上にエッソのガソリンスタンド、この県道あたりに、鹿野こじか園がございまして、というような位置関係になっております。

一枚めくっていただいて 26 ページ、鹿野小学校の台帳平面図です。26 ページに対する建物の平面、27 ページ以降が各フロアの平面です。この学校は、平成 13 年に旧三小学校を統合するために造った施設なので、まだ築 14 年目でかなり新しいです。少し、灯り取りのトップライトが傷んだりして、それを取りかえたりしてはいますが、新しく大変いい施設でございまして、27 ページの平面図を見ていただきますと、左側、普通教室が並んでおります。統合した当時、3、4 年前は、各学年 2 クラスということで、全体で 300 人ちょっとということでした。今は半減しておりますが、各学年 2 クラスとれるような教室配置になっております。今はほとんどの学年で 1 クラスということになっております。1 つの学年で 2 つの教室があるのですが、普通教室の『普』と書いてあるのが 2 つ並んで、上に多目的スペース、これはワークスペースと言いますかね、いろいろな活動に使うスペースが廊下との間にあります。この間の壁は動くようになっていまして、1 クラスの学年はこの壁を動かして 2 教室分のスペースを、広々と使っているというような状況です。それから地域開放スペースというのが、コンピューター室と図書室の間、ここの廊下にシャッターが下りるようになっており、先生がおられない時でも開放地域利用できるということで、図書室・家庭科室・音楽室が右側トイレの方の入り口から入れられるようになっております。体育館の方から入れまして、ブラスバンドの練習とか利用したりしているスペースでございまして、以上が小学校の施設になります。

続きまして中学校です。30 ページから中学校の台帳になります。中学校は少し施設が古く、校舎・体育館は、鹿野城跡の二の丸にあります。体育館は、昭和 60 年建設で築 30 年経っております。そんなに古い感じはしないのですが、多少、雨漏りが見受けられるようになっております。雨漏りなのか露なのか、分かりませんが、堀に囲まれていますので、かなり湿気も多いです。体育館とプールの中に校舎がございまして、昭和 50 年の建設で築 40 年経っております。耐震補強は 10 年ほど前に完了しております。耐震性には問題ないのですが、雨漏りがかなりしてございました。サッシなどがかなり傷んでおり、ガラスががたついているとか、電灯も暗かったりということで、もし今後も 20 年 30 年使うのであれば、屋上の防水や設備の改修などが必要な建物になっております。右側に食堂と書いてあります。これは一階が給食調理センター、2 階がランチルーム兼多目的ホールになっておりまして、平成元年の建設です。まだ新しい建物ではございまして、プールが少し古く、これも今後使うとなると、今後、改修が必要かなという施設になっております。31、32 ページには、各フロアの平面図を載せています。中学校も以前は学年が 2 クラス、3 クラスあった学年もあり、少なくとも 1 クラスは十分な校舎になっております。古いですがスペース的には、余裕があるスペースになっております。施設のな小・中施設については、このような状況でございまして。

事務局 [児童・生徒数推移資料説明]

会長

ありがとうございました。

午前中に正副会長会を開きました。我々の任期は 11 月 26 日までとなっています。10 月中に鹿野の現地を訪問する機会を経て、10 月末に次の校区審議会、11 月に 2 回ほど審議会を持てればということ考えています。

その中でやるべきことは、鹿野についてどのような形で答えを出していくかということです。また、今日視察しました千代川以西についてどうするかということ。鹿野については、おそらく答申だと思いますが、千代川以西について答申するには検討が煮詰まっていない感じもいたします。残るところは中間まとめで出しました、中心市街地の問題、江山中学の問題も含めて、次期にどう引き継ぐかどうかということ、残り 3 回の審議会でやっていく必要があるということです。

鹿野については鹿野を訪問した後、答申に向けてというような流れでどうかということが今日、確認できればと思います。何かありますか。現地訪問の予定ですが、大体このあたりという見積もりのようなものはございますか。

事務局

先ほど「鹿野地域の教育を考える会」の皆様にお出でいただきましたが、事務局としましては、できるだけ早い段階で、10 月 19 日の週を目安に日程調整し企画したいと思います。また委員の皆様には、ご連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会長

現地訪問の時に、こんな点を詰める必要があるとか、こんなことを現地と相談をして資料を準備して欲しいとか、アンケートの結果をもう少し詳しく出してもらいたいという要望をお受けしたいと思いません。

委員

現地に行きましたら、今日来られた 5 名の方が出られるのでしょうか。その他の方に声をかけて集まってもらう必要があるのかと思っております。

事務局

もちろん、学校の施設視察等もございますので学校関係者、今日お出でいただいたのは「鹿野地域の教育を考える会」の役員等の方々でありますので、その他のメンバーの方々にもお声かけしていけたらと思います。また、逆に委員の皆様からこういった方にご出席していただきたいというようなことがありましたら、お伺いしまして、事務局の方で調整させていただきたいと思っております。ご意見がございましたら、この場でお願いできればと思います。

委員

校舎を実際に見学するわけですから、市の技術系の担当者もついでにいただきたいと思っております。小学校はまだ新しいのですが、中学校が相当老朽化しているということなので、現地の鹿野町の指導的な立場の人に分かってもらわないといけないです。

事務局

はい、分かりました。

委員

今、会長さんの方から今後の日程の方をお聞きしまして、10月に鹿野を視察して、そして12期で答申するということですが、地域からこれだけのものが出てきたから、それを即答申するということについては、私はいけないと思います。どういう理由でどうだとかということ審議会ですら十分に審議し、議事録にも委員の意見を明記して、どういう答申をするかということ。これが残らないと学校関係者、市民の皆さん、委員の皆さんに対しても意味がなさないではないか。審議会の務めとして、まだそれができていないと思います。

もう一つ、千代水地区の児童生徒数は450名程度なのですが、年々ずっと増え続けているのです。この千代水地区がどうして難しいかと言いますと次のとおりです。昭和35年から中ノ郷小学校も含めて統合しようという案が教育委員会なり行政から出てきて、昭和37年に千代水と中ノ郷が統合して、両方の児童合わせて519人13クラスという城北小学校が誕生した。千代水の児童276名が八千代橋を渡る。このことについて昭和50年にははっきりと商栄町、安長地区の子どもたちは高草校区に編入すると答申を教育長に出してあるわけです。

今日ももともとは鹿野の問題を審議するのではなく、この千代川以西をやるということであったわけですね。ところが鹿野の問題が出てきたので、鹿野の問題の方にたくさん時間を費やして待たせているのです。一番難しい、千代川以西問題の審議が十分にできない状態になっている。またこれが12期では、十分な審議ができなくて13期に持ちこすという。方向性が出せないということは、いけないと思います。

会長

鹿野の方の懇談会についての要望を出していただいて、進めていきたいと思っております。他にはいかがでしょうか。

委員

「鹿野地域の教育を考える会」の要望ですが、小中団結した教員団をとということについて、実際物理的に離れている中で、デメリットの部分もかなりあるのではないかと感じます。そのあたりをどのようにクリアして一貫校を目指すのか、より具体的な話を伺いたいと思います。

会長

他にはありますか。

委員

今、一貫校の話が出ていますが、文科省では義務教育学校という制度もできている様なので、そのあたりについての違いを委員がある程度、理解していないと一緒になってしまうような気がします。別に一貫校にしなくても、義務教育学校があるからそれでいいのではないかとということになると、混乱する恐れがあるのかなと思います。その資料についても一回出していただきたいと思います。

会長

法改正のパンフレットもあると思いますので事務局に準備をお願いしたいと思います。もう一つ、意見として出ていたことですが、IJUターンとか鹿野のまちづくりというのは、どのように取り組んで

おられるのか整理していただきたいと思います。他にはありますか。

では、山本委員さんから、千代川以西のことも出ましたのでやっていきたいと思います。資料の説明を事務局からお願いします。

事務局

スクリーンの地図は、見ながら協議をしていただいた方がよいかと思い準備をさせていただきました。36 ページの資料を説明させていただきます。こちらは学年別の児童生徒数を載せております。縦軸は千代水地域の町名になっております。横軸の方は0歳から5歳までは住民基本台帳に載っている子どもの数です。小1から中3までは、9月の段階で在籍している児童生徒数です。千代水1~3丁目には、城北校区の児童はいませんが、商栄町から緑ヶ丘2丁目まで、在籍しない子どもがいるというところもあります。合計を一番右側に載せております。小中学生、合計の数です。下の2欄ですが、千代川以西エリアの合計を学年ごとに載せておりますが、一番下につきましてはそれぞれの校区でこの年代の子は何人いるかという数字なので、在籍率が分かると思います。36ページについては以上です。

最後の資料は気象庁のホームページから拾ってきたものですが、特に緑の部分ですが、風の強さと人に与える影響ということで、特に平均風速10から15やや強い風ということで人への影響としましては、風に向かって歩きにくくなる、傘がさせないということです。前回の資料でお配りしたこの3年間の平均風速では、10から15という、ここまでの風速が主でしたので、特にそれ以上の風速があった日は、臨時休校ということで子どもが通っておりません。先ほど話題に出ました先週の風速ですが、小学校の方では早めに帰らせていただくとか、職員が立って児童の下校を見守ることがありましたが、気象庁の方で調べてみましたら、こちらの方は最大瞬間風速で見いただきたいので、37ページの資料では20、30、40というところになるのですが、ちょうど先週木曜日、下校した、まさに4時くらいから風速が高まっており、千代川の局地的なところではまた違うかもしれませんが、最大瞬間風速が10分間の中で20.6なので、風に向かって歩きにくくなる、傘がさせない状況のようです。最も吹いた時間帯は4時から7時くらいまでの間でしたので、徐々に風が強まってまいりました。ちなみにその日は午前10時くらいから、最大瞬間風速は10以上、計測されていたようです。私の方からは以上です。

会長

はい、ありがとうございます。その他のところも若干含めて言いますと、中間まとめのところ、残っているのが、①千代川以西の問題と②鹿野中学校の問題と③中心市街地と④江山中学校の問題です。報告のところに校区審議に関する活動として12ページにありますが、小学校レベルの神戸のところについては、「かんの教育を考える会」が活動しておりますが、まだ中学校区全体を考えるといった所までは出来ておりません。11月26日に任期が終わりますと、新しい校区審議会が編成されるまで、若干空白ができます。この委員がそのままスライドするかどうかということも含め、例えば委員の募集とか入れ替えとか、そういうようなことがあります。したがって、12期で出来るところまではいくのですが、審議の行方によっては答申には至りませんので次期の審議への申し送りというような形になります。

ですから4つ全部になるのか、鹿野とか千代川以西がある程度まとまって答申という形になるのか、これは歩んでみなければ分からない部分があるわけです。少なくとも中心市街地と江山中学を含めた、中間まとめについては次の2年間以内に形のあるものを答申してくださいという形の申し送りになるのではないかと思います。残り3回で江山中については、こんな形で申し送りするべき、例えば中学校単位の考える会というのを早急に立ち上げるということについて、申し送らないといけないですし、中心市街地については、どういうふうな形で地域の考えを聞いていくのかということの検討ができておりません。視察した千代川以西の問題についてもですが、鹿野、江山、中心市街地等についても、ご意見があれば伺いして、次回鹿野に伺ってヒアリングをして、残り3回でどこまで審議が深まるかということ

になります。岩崎副会長さん何か補足はございますか。

副会長

千代川以西の問題で一番気になっているのは、過去2回答申が出て答申が実現してない、その過程が分からない。審議された上で、駄目だという形で、答申どおりにできていないのか、他の要素が加わって止まってしまって、そこで答申どおりの校区編成になっていかないのか、そのあたりの意味合いが分からないので、もし答申を出したとしても、本当にそれができるのかどうかという疑問がずっと残っているのです。3回同じ答申を出して、それが出来ないとなると、何が問題なのかということになってくる。そのあたりのことを考慮した答申にしていけないと駄目なのではないかと思います。

会長

視察だけではたぶん問題は見えてこないの、今まで答申を出したのになぜ進んでいないかということ掘り下げないかぎり、おそらく動かないということですが、他にどうでしょう。何かありますか。

委員

鹿野の問題ですが、この話は3年前に西地域3校の統合の話がでまして、その話が自治会に入っていく、色々と協議した結果、それぞれが独立して残したいということで、小中一貫校という形もあるのではない、自治会でも話がありました。その時に福部がちょうど教育を考える会を立ち上げられまして、話をされたら青谷も鹿野も気高も3つが、我々もそれで残そうかということで、その当時終わりました。今回初めて鹿野で一貫校の話が持ち上がったのですが、この話は青谷も気高も鹿野も3つ同じ形で出てくると思います。鹿野がなぜ早かったかという、当時の会長さんは既に3年も前にアンケートを採るなどもともと先進的なところであります。学校なども町長さんの指導で色々な形になったり、統合も進められたりという地域であります。いずれ3地区に同じ小中一貫校の議論が出てくると思います。それを含めて考えていかないと、今回鹿野だけ認めたら、3つも認めなければならないことが起こってくるかもしれません。以上です。

会長

ありがとうございます。それでは神谷委員さんから少し、どんなことでも結構なので、お願いします。

委員

今日、千代川以西の視察をさせていただきました。八千代橋を渡ることについて、児童生徒にとって通常であればよいと思うのですが、気象条件など少し酷になれば安全面で心配だと感じました。実際にそのことについて保護者の方なり、地域の方がどれだけの理解を示してくださるか。理解はされていても他の部分で今までの答申が実現されてこなかったということはあるように思いますので、やはり答申をするということも慎重に考えなければと思いました。実際には危険であるということは肌で感じました。以上です。

委員

今、神谷委員さん言われましたように、そのとおりでと思います。今回は本当に地域の方も教育委員会も校区審議会もですが、保護者の方も本当に腹をくくって真剣に考えないといけないと思います。それがどこまでの重さを持って伝わっていたかということ非常に曖昧だと感じておりますので、今回できっちり決めるのだという決意のもとに皆さんに動いてほしいと思いますので、当然申し送りということになると思います。

鹿野については、本当に詳しく要望書を出しておられると思い、びっくりしたのですが、なかなか要望を出すところで、未来図がしっかりと決まるといことは難しいと思いますし、これを検討していく余地というのはたくさんありますので、そういう意味から言うと、あまり 12 期で答申というのは難しいかなと思います。

それと中心市街地と江山中の校区についても、来期に求めることの方が大きいのかと思います。教育を考える会がしっかりと立ち上がって地域と学校、保護者と話し合いが進む状態になるまで、もう少し時間がかかるのではないかと考えております。

委員

私も視察とは別で、会議 3 回ということで、先ほど千代川以西エリア、鹿野、中心市街地、江山、これを全部答申しようというのはかなり厳しいかなと認識しております。そうなれば、中心市街地と江山は本格的なことはまだ出されていないということになれば、これは次の審議会に先送りしなければならないと思っています。

千代川以西と鹿野は、仮にですが、結果的に先送りになったとしても、ある程度のところは、今のメンバーではこのようだが、それ以降はきちんと答申してくださいという形で、何もせずにというわけにもいきませんから、出来る限りのところまではした方がいいかと思います。ただ、出来るか出来ないかとなると、かなり厳しいと思うので、腹をくくって話された「鹿野地域の教育を考える会」を尊重しながらも、本来の審議会のコンセプトである適正規模を踏まえて答申しなければと思います。以上です。

委員

千代川以西については、私も当時者の一人になるのですが、しっかり審議をしなければならないと思いますので、来期につなげるとしても、今の会議だけでなくしっかり掘り下げて議論を進めていかなければと思います。地域や保護者の考えはどうなのかというところをしっかりと押さえなければならない。検討組織をどうやって立ち上げるかということで、千代水地区の自治会長さんには相談をかけております。小学校の中で立ち上げるのか、千代水地区でまとまって考える会を作るのか、あくまでも関係する町内会さんだけで作るのか打診中です。考える会を立ち上がっていないということも踏まえて、慎重に対応していただきたいと思います。

委員

城北小学校を預かる校長としては、様々な天候の中で、安全安心に登下校ができる、その観点からすれば、やはり千代川以西が小学校の校区だというのは問題であると思います。それ以上に、保護者なり地域の声をもっと聞かなければいけない、副会長が言われたこれまでの経緯をもっと知らないといけないと思います。そういう意味でこの 12 期に答申は無理であろうし、どういう形で 13 期に申し送りをするか、子どもの安全安心という視点と、これまでの経緯を委員が学習しなければならないと思います。

鹿野の問題は 12 期に答申ができればいいのですが、同じように福部のことや義務教育学校のことや、色々な形を見据えて、鹿野の思いを聞きながら、これも学習して答申にかからないといけないと思います。できれば 12 期に答申とういこともあるかもしれませんが、そのあたりはこの 3 回のどこまで出来るかという見通し的なものも持たなければと思っています。

委員

まずは江山中校区のことにつきましては、まだ地域住民の方の御意見であるとか、中学校区として一つのまとまった会議というところまで到達していないというのが実態だと思いますので、校区審議の議論のテーブルの上には、非常に乗りにくいというふうに思っております。江山中校区と鹿野中校区を比べ

た場合、江山中校区も小中一貫を考えたら、同じような距離で小学校と中学校が離れています。鹿野中の方の話聞いて、かなり住民の合意形成は出来ているのだと思いました。分離型というデメリットをどう方法でカリキュラムとか時間割りを解決していくことができるのかというようなことを考えてみましたが、そのあたりを重視していきたいと思います。

それから中心市街地については、まだ何の資料もいただいていない状況なので何も言えませんが、千代川以西については、目の前に高草中学校が見える所から、わざわざ橋を渡って北中にとということも、地域住民の方がどのような考えを持ちながら子どもを通学させておられるのかということが気になります。安全というような観点もあります。もう少し住民の方の御意見がわかる資料があればいいかと思えます。ただ、一つの町区の中で複数の小学校に通い、町内会そのものが成立できないというのが、異常ではないかと思えます。そのあたりをどうしていけばいいのか、というようなところまで、しっかり話をすれば多少時間は必要だろうと感じました。

委員

千代川以西の自治会長さんに聞いてみますと、大体の方が危ない所まで行かなくてもいいと、同じことを言われます。地区に帰ってそれを聞くことができないのは、町内会の組織や、子ども会の行事、また負担金を集めたりしておられる関係で、変えるとまたおかしくなるということがあるからのようです。その話がなかなか出せず、進んでいないのではないかと。いつも、校区審議会ではどういう答申が出るのかと聞かれるのですが、それはなかなか難しいです、ということでお答えをしています。答申をまずは出していただかないと、地区の方でこうしてほしいという意見はまとまらないと思えますので、よろしくをお願いします。

委員

まずお願いしたいのは、我々の委員の任期が11月26日までということで、絶対に審議会の空白は避けるべきだと思います。審議会を空白にしているということは怠慢になります。考慮してもらいたい。

次に千代川以西のことについて、詳しくは言いませんが、これは継続審議として扱ってよいでしょう。

それから、鹿野の件ですが、あのように熱い思いがあったメンバーですので、現地を実際に視察し、また意見交換するわけですが、これは案外早く片付くと思います。南中もそれぐらいのスピードで答申したのですから、これはやはり鹿野に一貫校なら一貫校、それを認可してあげるべきだと私は思う。地域から中学校がなくなるということは、非常に廢れる。中学校がなくなれば、そこにわざわざ移って行く若い世代もないわけです。

それから神戸のことですね。これも早く片付くと思う。南中の答申をした経過から言えば、神戸小学校は美和小学校と統合するのか、あるいは一貫校を目指す、複数案の提示を持って、地区に投げかけてもいいと思います。地域の話が十分、熟さないから答申できい。こういうことになってはいけない。複数案でも結構。神戸小と美和小をどう結ぶのか。あるいは江山中、神戸小、美和小をひっくるめて一貫校にするのか。こういうことを地区に投げかければいい。いつまで経っても地区の考えがああだ、こうだとなつてはだめなのです。

同じように中山間地区に該当する東郷、それから気高の逢坂・瑞穂、これも考えていかなければいけません。

それから次に市街中心地域。北中学校・西中学校の二つの中学校。それから袋川からお城に抜けての3小学校。遷喬、久松、醇風ですね。これははっきり、方向付けをしないといけないのですが、古い歴史の伝統ある学校ですから、卒業生や保護者の意見もあるでしょう。これも我々審議委員が複数案の答申もできるわけです。中心市街地の児童数は著しく生徒が減少しています。中心市街地が解決すれば、中山間地の学校も案外片付いていくのではないかと。

南中で複数案の答申を出したのですから、複数案の答申で結構。刺激を与え合ってもよいと思う。審議会の意見として刺激を与えてあげたらいいと思う。複数案で答申をする、今はこれでいいと思います。

委員

校区審議会で話題になる内容というのは、今出ている以外にたくさんあると思いますし、今まで優先順位を付けて進めていこうという話にはなっていたのですが、空白期間というのを作らないで、次の審議会が進められるようにしてもらえたらと思っております。次期の校区審議会の13期についても、そのことが特に重要ではないかと思っております。

今日、千代川以西の学校も見せていただいて、一番感じたのは、目の前に学校が見えているのに、わざわざ遠くの学校に通わなくてはいけないというのは、今までの歴史的な背景もあるのですが、これも地域の声をもっと吸い上げられる形をとるようにし、時間がなくて結論を出してしまったということではないように進めていかなければならないと思います。

それから、鹿野中の問題について、ある程度の方向性まで12期の間に出せていけたらと思います。次の審議会に出す形にしてもある程度のものを出していけるようになればと思います。以上です。

委員

24ページの千代川以西に係る経過、第1期の41年2月の答申及び42年度から順次再編実施、校区変更18校区（小学校11、中学校7）、学校統合の内容は是非提出してください。

さて、第2期46年から見ますと、48年に浜坂小開設、50年には城北小の増加に伴う校区の再編及び北中の校区から安長、商栄町を高草中校区に、津ノ井、米里小の統合について答申された。55年に桜ヶ丘中、56年に岩倉小、東中の移転、57年修立小の移転、60年に中ノ郷中、62年に美保南小、63年に湖山西小、57年10月の答申には、「城北南団地、安長地区の宅地開発に対応する学校用地の先行取得」。63年には、「城北小、世紀小、大正小にまたがる地区（城北南団地を含む）の再編」が答申された。しかし、この4件の答申は実施されていない。

以降、城北小の増加に伴い、平成7年中ノ郷小を開設、また津ノ井ニュータウンに伴い平成9年若葉台小を開設した。このようにほとんどの校区は、再編あるいは分離新設して学校の整備をしてきたが、千代川以西の旧高草地区は、7校を廃校（神戸中、大和小、明治中、豊実小、松保小、大郷小、千代水小）にしたまま何ら対策も修正もせず約50年の歳月が経過した。その間に、千代水と大正校区の中間点に、元の5つの小学校の校区を統合して世紀小学校という500人以上の学校を作ってしまった。また、現在は千代水地区の児童を城北小に100人、北中に33人通学させている。

増加の一途をたどり450人余りの児童生徒を抱える千代水地区は、現在5つの小学校区に分散されており、まことに異常であり対策が急がれる。

委員

私の子どもがある程度大きくなってきた時に、家をどうしようかという話になって、マンションを見に行ったことがあり、その時にその方が『ここは北中エリアですから』とおっしゃり、私は実家がこちらではないので、そのようなことをまずおっしゃったのに驚きました。私はそういうことを知らなかったもので、鳥取というのはこういうところなのだと感じました。結局、我が家は桜ヶ丘中なのですが、子どもが高校生になって、桜ヶ丘中出身というと、周りの人に引かれるという話を聞きます。でも私はどんな学校であっても、自分がしっかりして目標を持ってやっていけるところだったら、それでも何とかやっていけるかなと思います。昔からの地域からの感情とか、やっぱり北中とかあるかもしれないが、今日も八千代橋を渡ってみて、子どもを安心して「行ってらっしゃい」と言ってやれるところに行かせたいと思いました。なかなか難しいことで、今まで何度も議論に上がっていたことなのかもしれません

が、こんなに時間がかかっても、子どもさんがいい方向で、安心して学校に通える方に話を持っていったらと思います。

鹿野中のことは、地域の皆さんがまとまっておられたので、あとは今度また視察とか行ったときに、こういうことも考えないといけないですと審議会でも意見が出て、こういうことがあるのだと気付いていかれて、いい方向になればいいと思います。以上です。

委員

鹿野のことですが、1ヶ月足らずで答申というのは、なかなか難しいと思うのです。というのが10月、11月で3回会議を開いて、駆け込みで答申までこぎつけるようなやり方はしない方がいいと思います。自治連の会長さんがおっしゃったように、鹿野でそういう答申を出してしまうと、気高中で出てきたらどうするか。鹿野で小中一貫校を認めて、気高で認めて、青谷で認めるというのは、中学校の統合というのは「もう絶対ないのですよね」という話なのかどうか。もう少し議論を深めることが必要であると思います。

それと、千代川以西のことですが、これまで答申を何回も出して実現されなかったから、出さないというのではなく、何回でも直すべきところは直して、それが一番いいという答申を出す。それは、今回間に合わないとしても、風とか雨で子どもたちが災害に巻き込まれた時に、起きてしまってからあの時こうしておけばよかったということがないように、慎重にかつ必ず答申を出すという具合に進めていって欲しいと思います。以上です。

副会長

まず千代水の件は先ほどお話しした通りです。一番気になるのは千代水の件で、どういう形で答申どおりにいかなかったのか経緯が私たちに伝わってこないということです。それと同じケースが気高の件です。前の審議では一本化する形で、審議会に出したと思うのです。ところが今の形で、青谷、気高も新築の状態になってきている。その経過が何も伝わってこない。その中で一生懸命、審議された結果だと思うので、そのあたりの経過がどうなっているのかということをいつも思っています。

もう一つ、中心市街地の件ですが、事例として遷喬小学校の例を出させていただいたと思います。男の子ばかりになったという。義務教育でそういうのはいいのだろうか。少なくとも男女共学というのが原則。一人か二人おられたが、それを回避されて、他の学校に通学されているという実態がある。だから、そういう実態を作っている今の校区割に問題があるのではないかと。それを解消するためには、ある程度規模を大きくすればそういうリスクを少なく出来る。ですから適正規模というのは、必要だと思います。そのあたりも含めてもう少し審議するべきだと思います。

会長

ありがとうございます。まとめますが、事務局から鹿野の現地視察の日程と、残り3回の会議日程については、調整させていただきます。

千代川以西と鹿野の答申については、慎重に色々な議論をするという形で進めます。その結果、ある形が見えれば答申というのはあり得ますが、無ければ答申は次期に送る。方向性を出さずに次期に送るのか、方向性を固めた上で送るのかというのは、また相談したいと思います。

残りの2つのエリアの問題については、12期では議論を深めておりませんので、もう少し議論してから送ってもいいと思います。

審議会の空白化ができることについては、あとで事務局にマイクを渡した時に何かあれば説明をお願いしたいと思います。我々の任期は11月26日に切れます。市報などで一般公募など様々なプロセスがあります。そのようなことから、やはり一定の期間は空くのだろうと思われれます。

では、事務局の方にマイクをお返ししたいと思います。

事務局

今回の鹿野地域の視察を10月19日の週に調整をさせていただくということと、次回以降の日程でございますが、視察を受けての審議を10月27日の方向で調整をさせていただきたいと思っております。それ以降のスケジュールにつきましては、予定でございますが11月6日に2回目の審議をいたしまして、11月16日に3回目の審議ということでお願いしたいと考えております。先ほど会長さんがおっしゃられたように、内容としては千代川以西エリア及び鹿野地域の議事を中心をお願いしたいと思います。日程につきましては以上でございます。

事務局

先ほど次期の件もございましたが、現時点では予算の範囲内で審議をしていく形になろうかと思っております。空白期間とありましたが、これは再度検討させていただくことになると思っております。

それから、これまでの答申に対しての教育委員会の動き等、副会長さんのおっしゃった部分についても、これまでもかなり調べているのですが、なかなか判明しない部分がありますので、これからも進めていきたいと思っております。今後の3回の審議会ですべてお伝えできるかという難しい部分もございますが、動きは止めないで進めていきたいと、ご理解いただけたらと思っております。

以上で第15回の校区審議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

平成 年 月 日

会 長 渡 部 昭 男

議事録署名委員

署名委員 米 原 隆 生

署名委員 上 山 弘 子